

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私は、周りのみんながどんどん進路希望をかためて、その目標に向かって頑張りなかに遅くまで進路希望が決まらず、悩んでいました。自分の好きなものを考えた時に「同志社女子大にこんな学部あるよ」と言われたことが知り、きっかけとなり、オープンキャンパスに参加し、その雰囲気の良いことから志望校に決めました。

- (2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

私は苦手科目が英語で、同志社女子大の英語は難しいよと言われていたので、まずは単語や文法など、基本的なことをかためていきました。この時はまだ過去問などは聞いておらず、基礎的なことからかためていくと色々な問題にも対応できると思っています。学校で使っている教材でもいいので、それをしっかり活用し、頭に入ることが最優先なことだと思います。

〔夏休み〕

夏休みに入ると、1学期の間にあるオープンキャンパスで持ち帰った過去問に取り組み始めました。赤本と違っている解説はついておらず、レコメマフなので見直したは少し難しいかもですが、同志社女子大学の赤本は、(私の)一部の問題が載っているだけなので、同志社女子大学を第一志望校として考えている方は、できれば、オープンキャンパスで配られる過去問のチャレンジをするのがおすすめです。夏休みは、全然得点を伸ばせなかったこともありました。地道にコツコツやっていくのみと思い、教をこなしていきました。

〔2学期～入試直前〕

夏休みから始めていた、過去問を続けながら、徐々にあがってきた。苦手単元の復習、反復に力を入れていきました。私は11月にある公募制推薦を受け、結果は思ったようにはいかなかったのですが、一般入試の過去問をやった時、問題形式がすごく似ていて、公募制推薦を受け、それに向けて勉強してきたことは無駄ではなかったかと改めて感じ、やはり過去問は教をこなすことが一番の合格への近道だと思いました。実際私も、直前まで、このままでは合格できるかどうかというラインで伸び悩んでいました。本当の直前になると急にぐんと伸びた時がありました。最後まで諦めずに過去問を繰り返す、傾向をつかんでいくことが大事だと思います。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は高校の行事等は思い、楽しめました。高校3年間、その行事が最後でこれを楽しめなければ絶対に後悔すると思い、準備などにも積極的に参加しました。楽しむ時は全力で楽しむことが受験生として良い切り替えに繋がったと思っています。夏休み明けには文化祭があるから、そこで勉強頑張ろう、や、〇〇が終わったら次の行事まで、頑張ろう、など、行事が好きな私にはモチベーションアップにもつながりました。健康面と学習面、両方に言えることなのですが、普段の休みの日や、特に長期休暇など、生活リズムが崩れやすい時、意識的に生活リズムを崩さないように心がけました。普段どおり生活することで、学習リズムを崩さず、体調を整えることに心がけ、アラスになったと思っています。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験生と呼ばれる1年間はずっと長く、プレッシャーを感じ、周りのみんなと自分を比べて不安になることも多くあるかと思いますが、自分がやりたいと思える道が決まったら、その気持ちに信じて、最後まで諦めず、1つ1つ苦手を潰してあげれば、勉強を続けていくことが、きっと進路実現につながっていくと思います。頑張ってください！